

WGの検討状況

(システム面を中心に)

2008年05月8日

福井省三

システム検討方針

「やさしい」システムをめざす。

なるべく決めないようにする。

インターフェース(利用方法)

第一階層 単位的・例:震度表現

- 情報提供者の定義に合わせる。表現が複数あれば変換も。

第二階層 データ構造・例:避難所情報

- 関連情報の紐付けは、最小限を定め、拡張を可能にする。

第三階層 データ表現・ファイル形式

- 情報提供者が情報を出しやすい形。伝達者が受け取りやすい形。グッドプラクティス方式。

第四階層 メタデータ・有効期限、削除など流通制御

- 拡張性をもちつつ、それなりに規定を決めて実施。

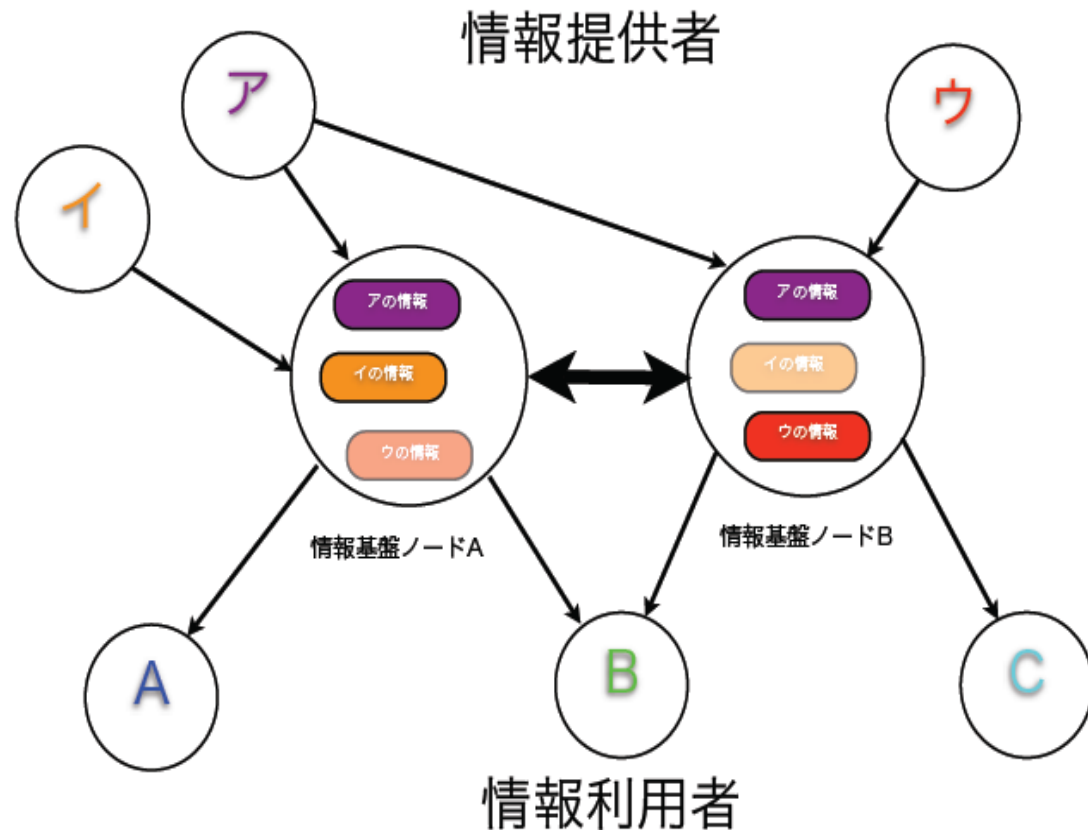
第五階層 手順・情報の更新など動的なやりとり

- 抽象的な要件を規定した上で、グッドプラクティス方式で。(例えば、TVCMLなど)

構造

- 全国域
- 広域
- 県域
- 地域

情報提供者が接続するノードは単一とは限らない。情報利用者が接続するノードも単一とは限らない。地理的な制約も存在しない。ノードの設立はできるかぎり自由とする。例えば、下図のような状況化で、不整合なく情報の流通を実現することが本情報基盤の技術的検討の要所のひとつと思われる。



検討の現状

プランニング

ビジネスモデル

システムデザイン

システム構築

詳細設計

具体的スタディー ① 2004年10月 台風23号、兵庫県豊岡市の水害

10月20日	防災行政無線のスピーカーからの情報	メディア対応
15時07分	気象情報	A&B
15時55分	JRやバス運転見合わせの情報、公民館開放と自主避難の呼びかけ	A&B
16時35分	県道通行止め情報	A&B
17時15分	円山川の水位上昇の情報	A&B
18時05分	避難勧告発表	A&B
18時30分	避難勧告(再放送)	A
18時45分	避難勧告地域の拡大を発表	A
19時13分	避難指示発表	A
23時15分頃	円山川決壊	4万2000人の10%、3800人が避難終了

兵庫県北部豪雨(2004年)の記録より

具体的スタディー②

地上放送局を中心としたモデルを想定

ミニмумサービスの検討

